

第3回都城市総合教育会議 議事録

日 時：平成28年10月7日(金)午前9時～10時10分
 場 所：都城市役所本館4階 秘書広報課前会議室
 出席者：都城市長 池田 宜永、教育委員長 小西 宏子
 委員長職務代理者 赤松 國吉
 教育委員 中原 正暢、濱田 英介
 教育長 黒木 哲徳

発言者	内 容
前原総合政策部長	<p>定刻になりましたので、ただいまから第3回都城市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、総合政策部長の前原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに、新教育委員の紹介をいたします。今回新たに教育委員になられました、濱田英介教育委員です。濱田委員一言挨拶をお願いいたします。</p>
濱田委員	<p>この度、都城市教育委員会委員を拝命させていただきました濱田英介でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>現在、都城高専に勤務しておりますが、教壇には立っておりますが、教育全般について良く分かるというわけではございません。この点に関しましては、皆様方のご指導、ご鞭撻を受けながら勉強させていただきたいと思っております。大変責任の重い仕事だと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。</p>
前原総合政策部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、池田市長からあいさつをお願いいたします。</p>
池田市長	<p>おはようございます。本日は第3回の総合教育会議ということで委員長、また委員の先生方、教育長、関係者の方と会議を行えることを有難く思っております。</p> <p>皆様ご承知のとおり、国の制度が変わり、より市長部局と教育委員会の連携を図るということでこの総合教育会議が置かれております。今日は、教育大綱(案)、教育振興基本計画(骨子案)ということで内容がございます。忌憚のないご意見をいただきながら議論させていただければと思っております。</p> <p>また、今ご挨拶いただいた濱田先生には、新たに教育委員になっていただき誠にありがとうございます。これまでの先生のご経験を踏まえて、様々な観点からご助言、ご指導いただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>私も、任期が2カ月弱になってきたわけでございますけれども、改めて皆様</p>

	<p>方には様々なご指導、ご鞭撻いただきましたことに感謝申し上げたいと思います。今後もしっかりと仕事ができるように、選挙がございますので準備をしないといけないわけがございます。私がこの4年間やって思ったことは、行政にはあまり無い観点ではありますが、スピード感と結果をしっかりと出すこと、そこに本気で熱を持って取り組めるかが重要ということです。市役所の中を見ても、部によって温度差があります。職員によっても温度差があります。しかし、「頑張る」というものが自己満足で終わっているのか、結果が出てきているのかということ、熱があるか無いかということは絶対的なところだと思っています。</p> <p>先日、盛和塾というのに出席しまして、技術屋さんである稲盛和夫先生が、物事を成功させるには、能力とそれに対する考え方、熱意の掛け算だとおっしゃっておられました。そのうち、知識、能力というのは1割、後は思いとそれに向けてどれだけ頑張れるかという熱意だということでありまして、私もいつもそれを肝に銘じております。私も今後仕事ができる立場になった暁には、これまで以上にその気持ちを強くして取り組んでいきたいと思っておりますし、是非とも先生方にもそういった思いの中で仕事をしているということで教育委員の立場で教育委員会をご指導いただけると大変有難いと思っております。そうすれば、仕事も前に進みますし、結果として子どもたちに直結する話でありますので、今後ともご理解をいただければと思います。</p> <p>少々長くなりましたが、これまでのお礼も含めましてご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
前原総合政策部長	<p>ありがとうございます。続きまして、小西教育委員長からあいさつをお願いいたします。</p>
小西教育委員長	<p>皆様こんにちは。ご紹介いただきました小西です。本日、会議の開催にあたりまして、前回に引き続き総合政策課の皆様には大変お世話になりありがとうございます。</p> <p>ただ今市長の話にもありましたけれども、子どもたちの在籍というのは限られた時間でして、スピード感といいますのは大変重要でございます。私ども、いつかではなく、今の児童、生徒の皆さんに幸せがあるように、そういう思いを持ってやっていきたいものだと思改めて思ったところです。今回、濱田英介委員に加わっていただきまして、また新しい風を流していただきたいと思っております。</p> <p>それから、私どもは去る9月11日中学校の体育祭、10月2日、一部9月の25日でありましたが小学校の運動会にそれぞれ事務局から出席してまいりました。大方の感想を伺いますと、近年暑さが増してきて、とりわけ今年は厳しい暑さでしたが、その中でも練習を重ねた結果の競技、応援、全てのプログラムを通して昨年以上の感動をいただきました。生徒、先生、保護者の盛り上がりも大変なものでありました。この良い風景を見ますと、色々な課題もありま</p>

	<p>すが教育施策の完成に向かって努力しなくてはならないと実感したところです。</p> <p>そしてお届けいただきました大綱も11回の改訂を重ねていただいております。教育振興基本計画も日夜事務局で検討を重ねているものです。今回はそういったご苦勞に十分応えられるような内容の深いものになりますことを願って簡単ではありますがご挨拶いたします。</p>
前原総合政策部長	<p>ありがとうございました。失礼いたしまして、今後は着座のまま進行させていただきます。</p> <p>それでは5の協議事項に入ります。教育大綱（案）についてについて事務局がご説明いたします。</p>
吉永総合政策課長	<p>総合政策課長の吉永でございます。</p> <p>都城市教育大綱(案)について、ご説明いたします。座って説明させていただきます。</p> <p>教育大綱の策定に当たりましては、今教育委員長よりお話しいただきましたように、前回の総合教育会議以降に意見交換会を開催いただき、ご議論、ご検討を賜りました。この場をお借りして、感謝申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>既に、お手元にお配りしてあります教育大綱（案）の内容につきましては、ご精読いただけたものと考えますが、濱田委員におかれましては、今回からのご参加ということになりますので、策定に当たっての議論の経過等を踏まえて、概略を説明させていただきます。</p> <p>教育大綱の表紙をおめくりいただいて、「目次」をご覧ください。</p> <p>全体の構成を「序章」と「本論」に分け、「序章」では、計画体系や計画期間等について言及しました。そのうえで、「本論」を教育大綱とし、第1章に「育む人間像」、第2章に「教育の振興に関する総合的な施策の基本方針」を掲げております。</p> <p>序論につきましては、3、4ページに、策定の趣旨、計画体系について述べております。4ページに、計画期間及び推進していくうえでの必要な視点を述べておまして、前回ご議論をいただいたところでございます。</p> <p>6ページからの本論につきましてご説明をいたします。</p> <p>7ページに、第1章として「育む人間像」を掲げております。</p> <p>前回の案では、「教育基本方針」及び「教育等の基本理念」として、これまで、教育委員会が定めて来られた教育基本方針である、「たくましいからだ、豊かな心、すぐれた知性を養い、郷土愛と国際感覚にあふれ、時代を切り拓く気概と心身ともに調和のとれた人間の育成」をベースとしたものをお示しましたが、前回の意見交換会の中で、委員の皆様から、「教育基本方針と基本理念を1本化して育む人間像として明確に示したほうがよいのではないか」、「教育基本法にう</p>

たわれている人間尊重の精神というフレーズを明記してほしい」、「人材という言葉ではなく、人や人間と記載すべきではないか」、さらに「優れた知性、自立・気概、心身の調和等の全てを備えているのが人間力であり、人間力豊かな人こそ、育む人間像、ではないか」などのご意見をいただき、7ページの枠で囲った部分に記載してある「人間像」を有する人の育成を目指す、としたところで

す。
8ページからは、第2章「教育の振興に関する総合的な施策の基本方針」となります。4つの基本方針に沿って、10の施策の方向性を定めております。前回の総合教育会議の後に開催した教育委員の皆様との意見交換会において、主に、表現の方法や言葉の狙いについてご意見をいただき、所要の修正を加えたところで

す。
1番目の基本方針には、「明日を担う、子どもたちの学力・社会を生き抜く力を伸ばす」を掲げております。

本市の役割として、主に、幼児期から義務教育にかけての学習環境を充実するとともに、「自ら学び、考え、行動する力」を備えた、主体的・能動的な人間力あふれる人材を育てていく取組を進めていく方向性を示したものとなっております。

9ページ目の方針には、「ふるさとを誇りに思い、世界に羽ばたく子どもたちを育む」を掲げております。

ふるさと都城を生涯誇りに思う心を育むとともに、世界に羽ばたくグローバルな人や新たな価値を創造する人を育む教育が必要だと考えております。

10ページは「常に学び、感性を磨き、文化の薫る豊かなまちを創る」という、生涯にわたって意欲を持って学べる環境づくりや、スポーツや芸術文化にふれあう環境づくり、歴史や有形・無形の地域文化資源に親しむ環境づくりを推進していく方針を掲げております。

最後に、11ページには「地域を挙げて教育に取り組む、協働のコミュニティを実現する」方針を掲げております。

現在、本市で進めている「地域を挙げて、子どもたちの健全な成長を促す、学びの共同体の仕組みづくり」や、高等教育機関との連携、多様な市民団体等が、より一層自立的、主体的に協働してまちづくりに参画する社会づくりを進めていく方針を掲げております。

以上が、皆様との調整を踏まえた、本市の教育大綱（案）であります。

今後につきましては、本日の会議で調整が整いましたら、パブリックコメントを経て、29年度からの大綱としてお示しできるように、進めてまいりたいと考えているところで

す。
以上で、説明を終わります。よろしくお願いたします。

前原総合政策部長

ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見、あるいはご質問等はご

	<p>ざいませんでしょうか。</p>
赤松教育委員	<p>大変素晴らしいものに仕上がっていると思うのですが、一つ気になった点がございませう。7ページに育む人間像がございまして、それを要素として表す楕円形の図がございませう。真中に人間力があつて、国際的視野等5つの項目が掲げられているわけですが、これの配置について何か意図的なものがあるのでしょうか。</p>
吉永総合政策課長	<p>逆にお尋ねですが、そういう風に思われた背景を教えていただけませうでしょうか。</p>
赤松教育委員	<p>人間力という部分には、基礎的な力の部分もありますし、最終的に国際的視野や愛郷心、自立気概とより次元の高い部分もあると思つておられます。それを位置として表すと、育む人間像を読んだときにより分かりやすいものになるのではないのでしょうか。そのような意図がされていませうのか、されてないのかをお聞きしたかつたのです。</p>
吉永総合政策課長	<p>今赤松委員がおつしやつたのは、育む人間像として、前段に「優れた知性と豊かな感性とたくましいからだを備えたふるさとを誇りに思ふ自立した人」、という考え方があり、さらに「時代を切り拓く気概を持ち、心身ともに調和のとれた、国際的視野に立つて社会の発展に寄与できる人間力豊かな人」、これらを全て備えた人というのが人間力豊かな人ということは、前回の意見交換会の中で議論させていただきませうました。国際的視野とか愛郷心とか、さらに発展的な力というものは、優れた知性と豊かな感性とたくましいからだに宿つてくるのではないかというお考えがあるということですね。それであれば、この図の下の方にそれらを位置づけて、発展的なものを上の方に表した方がよいのではとのご意見ということによろしいのでしょうか。委員の皆様がそうであるべきだということであれば、ここの図をそのように変えたいと思ひますがいかがでしょうか。</p>
前原総合政策部長	<p>ご意見ございませんでしょうか。</p>
池田市長	<p>ちなみに色は意味があるのでしょうか。色は結構重要でせう。青系が多いので、修正するのであれば、色ももう一度考えたほうがよいのではないのでしょうか。</p>
吉永総合政策課長	<p>そのようにいたします。再度事務局で練らしていただき、最終案についてはお示しをしたいと思ひていませう。</p>
前原総合政策部長	<p>その他、ご意見等ございませんでしょうか。</p>
濱田教育委員	<p>「たくましいからだ」という言葉が気になつておられます。この言葉がそういうからだでない人たちにどういふ気持ちをもたらすかといつたことは、配慮しなくてはいけないうかなという気がしておられます。載せるのであれば、「これはまずいんじゃない」という外からの言葉に対して、どう答えるのかを考へておく必要があると思ひます。</p> <p>どうしてこのようなことを言うのかといひますと、以前、都城高専において</p>

	<p>教育理念を作りました。定期的に教育機関としてふさわしいかを審査を受ける機会があるのですが、その中で理念の中にあった「健全な心身」について、必ずしもそうでない人、なりたくてもなれない人がいる中で、そういったものを載せるのはどうだろうかという意見をいただき、その部分は削ったということがありました。ここは難しい部分だと思います。</p>
吉永総合政策課長	<p>7ページの育む人間像の「優れた知性・豊かな感性・たくましいからだを備えた人」の部分に障がい者の配慮に欠けた表現という捉え方をされないかというご意見と理解しました。</p> <p>事務局としては、人それぞれに個性があることを踏まえたと、健常者であれ、障がい者であれ、今有している知性や感性、からだを、より優れたものに、より豊かなものに、あるいは、よりたくましくしていくべく、育んでいこうという姿勢が教育だと考えておりました、そういった前向きな姿勢を表したものと理解しています。</p> <p>当然、この表現は、ご存知のように、教育委員会が、これまでに定めて来られた「都城市の教育基本方針」において、「たくましいからだ、豊かな心、すぐれた知性を養い、郷土愛と国際感覚にあふれ、時代を切り拓く気概と心身ともに調和のとれた人間の育成」として、標榜されてきたものを引用して検討を加えたものです。</p> <p>その上で、10ページの基本方針3「常に学び、感性を磨き、文化の薫る豊かなまちを創ります。」の施策の方向性5「誰もが意欲を持って学べる環境を創ります」の2行目では「適切な配慮を持って障がい児教育を進めるとともに」と記述をしておりますので、今申しあげたような、より前向きな姿勢をここに掲げたにご理解いただいたいと考えております。</p>
濱田教育委員	<p>今のご説明でよく納得いたしました。「たくましいからだ」という表現はそうでない人を切り捨てる言葉ではないと。都城市民憲章の中にある「人を思いやる心」とかが大きな受け皿となってあるのであれば、それを感じられるまちであればいいのかなと思いましたが、今のご説明で納得させていただきました。</p>
前原総合政策部長	<p>その他、何かございませんでしょうか。</p>
黒木教育長	<p>11ページの一番下の部分で、方向性はよろしいのですが、文章の中で「協働してまちづくりに参画する社会づくりを進めます」と書かれております。ここは基本方針では「教育に取り組む、協働のコミュニティの実現」としておる部分です。まちづくりは非常に大切ですし、私たちも教育振興基本計画の中でまちづくりを入れております。しかし、「教育に取り組む、協働のコミュニティの実現」ですので、ここは教育理念、教育の取り組みといった視点を入れていただければと思います。「主体的に連携し協働した社会づくり」であるとか、そういった方がいいのかなと少し感じたところです。</p>
吉永総合政策課長	<p>教育大綱の4つの基本方針につきましては、国の示す教育振興基本計画の8</p>

	<p>つの成果目標の中に準じた形で議論いただいたところでして、その中の成果目標8「互助・共助による活力あるコミュニティの形成」といった部分で、今おっしゃった教育の視点も含めた目指すべき形として掲げられているのかなということ、「まちづくり」という形で、ひと括りではございますが、少し幅を広げたところです。今委員がおっしゃったのは、これは教育大綱ということで、もう少し教育に絞り込んだ表現にしていくべきではないか、というご意見ですね。</p>
黒木教育長	<p>まちづくりというのは、もっと広く言えば社会づくりになるので、そこを削って社会づくりではないのでは。</p>
吉永総合政策課長	<p>皆さんの方で検討してほしいということであれば、再度協議をして最終案として7ページの分も含めて練り直したものを提示したいと思います。</p>
小西教育委員長	<p>11ページの写真なのですが、視覚的な問題で、前面の空席がもったいないかなと思います。全体が収まっているような写真の方がいいのかなと思います。</p>
吉永総合政策課長	<p>手前の空席が気になるころではございますので、ポーズも含め最終構成をいたします。</p>
前原総合政策部長	<p>それでは、教育大綱につきましては、皆様からいただいた意見をもとに再度修正、精査させていただくということでよろしいでしょうか。</p> <p>次に、6の報告事項に入ります。教育振興基本計画（骨子案）についてについて事務局がご説明いたします。</p>
杉元教育総務課長	<p>教育総務課の杉元です。それでは、現在進めております都城市教育振興基本計画の骨子案について説明をいたします。</p> <p>まず、計画策定の趣旨につきましては、前回の総合教育会議の中でも説明したとおりでございますが、平成18年12月に施行された教育基本法において、市町村においても教育振興基本計画の策定が努力義務ということで位置づけられております。それを受けまして、都城市でも平成29年度からの教育振興基本計画の策定を進めているところです。</p> <p>他の自治体におきましては、学齢期の子どもだけに特化したような教育振興基本計画もありましたが、都城市の教育振興基本計画では、学齢期のみならず就学前、一生涯に渡って学びについて考える計画と位置づけております。</p> <p>2番目の計画の位置づけであります。都城市の総合計画を上位計画と位置づけ、そして現在同時に進めております教育大綱は教育振興基本計画を網羅した計画として位置づけ教育委員会のスポーツ施設ビジョン、福祉部の子ども・子育て支援事業計画等との整合性を図りながら連携を図っていきたいと考えております。</p> <p>3番目の計画の期間ですが、29年度から38年度までの10年間としております。5年目には見直しをする計画としております。</p> <p>4番目に本市の教育の現状と課題、これは前回の総合教育会議の中でも説明</p>

	<p>をいたしました。4つの分野に分けまして、現在の現状と課題を整理しております。</p> <p>5番目に本市が目指すまちの姿、6番目に本市教育が目指す人の姿を、今回、理念・目標と決めました。まちの姿というのは教育委員会が掲げております「文化と歴史のかおる 文教のまち 都城」をそのまま使いたいと考えております。そして、今年の2月18日に制定しました「都城教育の日」の宣言文を人の姿としたいと考えました。</p> <p>7番目が施策の基本目標です。基本目標は大きく6つに分かれております。基本目標ごとの括弧書きが施策の内容となっております。そして、それぞれの施策の方向性ということで、より詳しく具体的な方向性を定めております。また、その施策ごとに管理指標を設けておりまして、最終的には10年後の管理指標ですが、その間、5年目の管理指標も併せて掲載しておりますので、5年ごとの見直しも含めてここで進捗状況の管理をしていきたいと考えております。</p> <p>現在は、この素案を教育委員会全課、定例の教育委員会で協議をしているところです。第1回目を9月29日に実施し、教育委員の皆さんのご意見をいただきました。今後は修正を重ねまして11月末の12月庁議にかけパブリックコメントを経て、来年度から策定という形を取りたいと考えています。以上です。</p>
前原総合政策部長	<p>ただいまの事務局からの説明につきまして、ご意見、あるいはご質問等はございませんでしょうか。</p>
小西教育委員長	<p>1ページの計画策定の3段落目ですが、最初と最後に「推進」というのが入っていて、文章として読みづらいかと感じました。</p>
杉元教育総務課長	<p>文章につきましては、そのこの部分を含め、今後精査してまいります。</p>
濱田教育委員	<p>8番目の計画の推進のPDCAサイクルについて、良くしていくということに関しては非常に大事で、これが確実に実行されていくことが重要です。ただ、学校教育ではこれがなかなか回らないという現実がございます。これをもう少し強調してもいいのかなと思いました。</p>
杉元教育総務課長	<p>PDCAサイクルについては、より具体的に書いていこうと考えております。今までは10年を据えた計画は無く、毎年「教育基本方針」を定めていたのですが、毎年の「教育基本方針」が10年間の教育振興基本計画になりましたので、今後毎年はそのそれぞれの主要事業等を踏まえて、教育委員会の計画を進めていく形になります。その際に教育振興基本計画との整合性も十分に考慮しながら進めていくと考えております。</p>
池田市長	<p>今の杉元課長の話によると、毎年作成していた「教育基本方針」を「教育振興基本計画」に代えるということですね。今後は主要事業等の実施計画で毎年見直していくというのが今の趣旨ですね。</p> <p>教育振興基本計画の中に数値目標が掲げられるとの説明がありましたが、それは5年ごとの見直しですか。何年先の目標が掲げられるのですか。</p>

杉元教育総務課長	教育振興基本計画の中では5年すなわち平成33年と10年すなわち平成38年の目標を掲げております。
池田市長	基本計画は通常3年や5年で見直しというのが普通ではないでしょうか。大きな箱なのでこれくらいいいのでしょうか、先程あったように、毎年やっていくものについては毎年の見直しが必要でしょうし、濱田先生がおっしゃったPDCAの回すサイクルが行政は遅いので、そのスピード感がないと前に進まないのではないのでしょうか。しかし、基本計画という意味では5年ごとでもいいと思います、難しいところですね。
黒木教育長	<p>教育の世界はなかなか成果が見えづらいものです。アクションを行うためにはそれなりの前提がなくてはいけないので、チェックした後のアクションを起こす理由、裏付けが必要です。</p> <p>私もスピードが大切と考えています。子どもは今が大切なのです。私たちが今こういうことをやりたいと思っても、裏付けがなくてはできないのです。3年後、5年後と子どもたちは待ってられないので、来年、再来年には実現できるものを、実行力のある市長の元やらせていただけたらと考えています。</p>
池田市長	<p>教育委員会に限らず、新しいことを始めて、2年様子を見ます、といったことがあります。私からすると2年は長い、民間では2年はとてつもなく長い期間です。</p> <p>規模の大小にかかわらず、毎年やっていくものは毎年見直しをしないと上手くいかないです。私が4年間やってきて、前に進む事業は止まっていません。常にマイナーチェンジ、手を入れながら前に進んでいるのです。そして事業として上手く回っていく、という気がしています。</p> <p>2年様子を見ます、といったことについて、実際2年後に話を聞いてみると、あまり変わりませんでした、といったことがよくあるので、毎年しっかりと見定めて、マイナーチェンジをしながら前に進んで行くという意識を持たれた方がいいと思います。</p> <p>教育という世界が長いスパンというのは私も十分に分かっていて、十分認識した上で、それでもスピード感やマイナーチェンジをしないといけないところはしていかないとより良い方向には行かないのではないかと考えています。</p> <p>計画自体は5年ごとの見直しですが、5年間毎年マイナーチェンジをしながら進めていくことが大事です。</p> <p>私の範疇には表に出さない計画というのが沢山あります。これは毎年見直しをさせます。そして不都合なことがあればすぐ変えさせます。そして4年先の最終ゴールを見据えて、今何をするという計画を作り、やっている中で不都合が出ればすぐに変え、とします。条例すら変えさせます。人間はたまに発想が逆転してしまうことがあります。本当はやらなくてはいけないことを、条例があるからできません、と。条例を変えればできることなのですが。</p>

	<p>適、不適があるのは重々承知の上、柔軟性、スピード感というのはどの分野も持っておかなくてはならないというのが私の考えです。</p>
吉永総合政策課長	<p>骨子の1ページの図にある総合計画について、基本構想の部分については地方自治法に規定がありましたが、それが撤廃されて総合計画の有り様も、自治体が委員に定めて策定できるようになっています。今現在策定作業に入っているところです。従来総合計画は基本構想と基本計画の部分に分かれており、いずれも10年計画でした。その中の基本計画については5年ごとに見直しをとというのが通例でした。今現在我々が進めているのは、基本構想自体は少し先を見た政策展開が必要と、一方計画部分では、今市長がおっしゃったようにスピード感が大事ということで、計画を総合戦略という名称に変えて4年間の戦略構成をしております。市の根幹となる計画の部分、総合戦略は4年の見直し、それにぶら下げる事業については濱田先生がご参画いただいておりますマニフェストの評価、全部局長と市長との政策合意書で数値目標を達成しているか否かのPDCAをやっていくといった形で、政策志向の非常に強い構成にできてきているというのが根幹にあります。元々教育大綱も市長と教育委員会との協議の上で作成していくのですが、従来なかった部分として、市長の意向を反映させるということもありますので、こちらも4年という形にしております。</p>
黒木教育長	<p>全然関係ないことで市長にお願いしたいことがあります。市職員の仕事を活性化させるという意味でお願いしたいのは、毎年教育長会議というのがありまして、会議の後に3つの部会があります。ただし、私1人分の予算しかなく、私が1人で参加するため、1つの部会にしか参加することができません。文科省が予算を付けようとしていることについて説明がなされるわけなので、国の動きを読み取り先手を打つことが重要です。また、各地の取組みの情報収集をし、本市に反映できるものを読み取ってくる機会が必要だと思っています。</p>
池田市長	<p>私もそう考えているのですが、財政課の立場上なかなか応えられないということもありますし、各部局も財政課に負けてしまうので。ただ必要な出張は是非行っていただきたいと考えておりますので、大丈夫だと思います。</p> <p>私も霞ヶ関の出張には随行は要らないので1人で行くのですが、全国市長会や九州市長会には勉強のために随行を連れていくこともあります。</p> <p>市役所にも学べないことも沢山あります。</p>
黒木教育長	<p>文科省の政策を読み取ってこないといけないと考えています。</p>
池田市長	<p>国の概算要求で出てきた予算は9割来年度の事業として出てくる可能性が高いのです。そこをくまなく探して、都城市に取り入れられるものは持って来いと財政課が指示しているはずなのですが、あまり徹底されていない思いはあります。</p>
前原総合政策部長	<p>財政課の立場から一言よろしいでしょうか。先程市長がおっしゃったように財政課も必要なものは必要だと考えておりますが、議論をしていくと財政課が</p>

	<p>勝ちます。</p> <p>各部署において、重要度、プライオリティをしっかりと説明できるようにしていただければ大丈夫と考えております。</p>
黒木教育長	<p>本当によくやってくれてはいますし、私も文科省のホームページを見るようにしています。分からなければ文科省の役人に直接聞いています。</p>
池田市長	<p>個別具体的に、この補助金をこれに使いたいので、と私に言っていただければ、ほぼ取ってきます。そこは私の仕事だと思っています。</p>
中原教育委員	<p>文中の国語的な表現なのですが、「一人ひとり」と「一人一人」が混在しています。どちらかに統一した方が良いのではないのでしょうか。教育大綱と教育振興基本計画どちらも統一された方が良いのかなと思いました。</p>
前原総合政策部長	<p>本日は長時間に渡りまして、皆様活発にご議論いただきましてありがとうございました。</p> <p>第3回目の都城市総合教育会議はこれで終了いたしますが、次回以降も活発なご議論をお願いしたいと思います。</p> <p>なお、次回の会議日程につきましては、詳細が決まり次第、事務局よりお知らせしますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>